

高校生 ICT Conference 2015

高校生 ICT Conference 2015 サミット

言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！

～ 高校生のボクたちだから ～

熟議録

2015年 11月 3日 (火・祝) 13:15-17:00
【会場】東京 ユビキタス協創広場 CANVAS (内田洋行)

主催

高校生 ICT Conference 実行委員会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省

1. 高校生 ICT Conference 2015 サミット 熟議グループ概要	2
2. 熟議録.....	3
【第1セッション】	3
■ 第1グループ	3
■ 第2グループ	3
■ 第3グループ	4
【第2セッション】	5
■ 第1グループ	5
■ 第2グループ	5
【第3セッション】	7
■ 第1グループ	7

1. 高校生 ICT Conference 2015 サミット 熟議グループ概要

熟議テーマ：	「大人が作った子どものルール&マナーを考える」
日 時：	2015年11月3日（火・祝）13:15-17:00
場 所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1セッション】</p> <p><第1グループ> 4人 石川県立七尾高等学校 2年 女子 羽衣学園高等学校 3年 女子 福岡県立香椎高等学校 2年 男子 沖縄県立那覇国際高等学校 2年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 菅野 泰彦</p> <p>〔書記〕 中央大学 中崎 啓介</p> <p><第2グループ> 4人 北海道札幌東豊高等学校 1年 女子 栃木県立宇都宮北高等学校 2年 女子 奈良県立奈良朱雀高等学校 2年 男子 福井県立科学技術高等学校 3年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 お茶の水女子大学 研究員 猪股 富美子</p> <p>〔書記〕 目白大学 金子 真志</p> <p><第3グループ> 3人 鎌倉女学院高等学校 1年 女子 長野県明科高等学校 3年 男子 大分県立大分雄城台高等学校 2年 女子</p> <p>〔ファシリテーター〕 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 野沢 健太郎</p> <p>〔書記〕 當山 達也</p> <p>【第2セッション】</p> <p><第1グループ> 6人 北海道札幌東豊高等学校 1年 女子</p>

石川県立七尾高等学校 2年 女子
長野県明科高等学校 3年 男子
奈良県立奈良朱雀高等学校 2年 男子
大分県立大分雄城台高等学校 2年 女子
沖縄県立那覇国際高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 菅野 泰彦
〔書記〕
中央大学 倉澤 光治

<第2グループ> 5人
栃木県立宇都宮北高等学校 2年 女子
鎌倉女学院高等学校 1年 女子
羽衣学園高等学校 3年 女子
福岡県立香椎高等学校 2年 男子
福井県立科学技術高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
お茶の水女子大学 研究員 猪股 富美子
〔書記〕
目白大学 金子 真志

【第3セッション】

<第1グループ> 11人
北海道札幌東豊高等学校 1年 女子
栃木県立宇都宮北高等学校 2年 女子
鎌倉女学院高等学校 1年 女子
石川県立七尾高等学校 2年 女子
長野県明科高等学校 3年 男子
羽衣学園高等学校 3年 女子
奈良県立奈良朱雀高等学校 2年 男子
福岡県立香椎高等学校 2年 男子
大分県立大分雄城台高等学校 2年 女子
福井県立科学技術高等学校 3年 男子
沖縄県立那覇国際高等学校 2年 女子
〔ファシリテーター〕
羽衣学園高等学校 教諭 米田 謙三
〔書記〕
目白大学 金子 真志

2. 熟議録

【第1セッション】

■ 第1グループ

F『皆さんが各地から持ってきた、大人のルール&マナーを挙げてみましょう』

S「自分達が使っている問題に直結していない」

・・・1日何分/何時間の使用制限・・・時間で縛るのは意味ない

F『言われる相手は？』

S「親」

S「大人が時間を決めて使っているか」

・・・使っていない

S「大人と子どもを一緒にするべきでない」

・・・責任の有無・・・子どもの言い訳に

S「自分達で考える機会」

S「ガラケーの大人は依存ない」

S「ルールや法律を決めるのは難しい」

・・・全体で決めるのは難しい

F『大人が30分使うのは大変』

S「時間制限に関しては考える必要あり」

・・・意味がない・・・全体に広めるのは困難

S「時間制限」・・・依存を問題にしている

F『ブルーライトも』

・・・アドレナリン、子どもの成長に影響するのでは？個人差も

F『ルール』

・・・一定の人が、均一で全員に適用

S「スマホのルール」

・・・大人が作成、依存の原因のスマホやLINEを作ったのも大人

F『スマホを使っているのは子どものほうが長い』

S「スマホを持っていない」

・・・依存が分からない、ゲーム依存は分かる

S「スマホ依存」

・・・ゲームは快楽性、しかしスマホは相手がいる・・・人間関係

S「クラス42人中40人が持っている」

・・・人間関係・話題、情報が違う

F『LINEバンバン使う』

・・・実際は？

S「LINEでは積極的に話すのに現実ではあんまり話さない」

S「時間割をLINEに貼り付ける」

S「これからの社会でLINEを使えないのは・・・」便利なのは使う

S「禁止するのは違う」

・・・うまく使うためのルール

<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

■ 第2グループ

F『大人のルール&マナー』

「大人に言われているマナーとかルールを」

「お母さんとかに言われていルールを」

「学校とかでやっているルールでも全然OK」

---ワーキングタイム---

F『否定的な意見だけじゃなくて、さすがは大人。。のような意見でも大丈夫ですよ！』

S「自分の置かれている環境がゆるいように感じた。」

S「多くポストイットが出るのは、それだけルールがたくさんあるということかも」

分類分け

- ・学校系
- ・お金系
- ・SNS 関連
- ・家

S「だいたい似たような感じになる。」

- ・フィルタリングはかけているけど、意味がない。抜け道もある。
- ・【フィルタリングは意味をなしていない】

S「これをルールに対して守れているのか、ルールを守りながら臨機応変に書いていこう！！」

S「私も全部守ってない。」

S「守ってない人はなぜ守らないのか。。。」

S「そこにネットがあったから。基本国内なら、どこでもネットにつながる。」

S「個人的な話ですが、家のパソコンが24時間つけっぱなしになっている。ビル・ゲイツとかジョブズが便利だと思って作ったものを、規制するより、使うほうが良いと思う。」

S「見たい質問サイトとかがフィルタリングによくかかるけど、なんか凹む。それってネットの意味をなしていない。」

S「フィルタリングの基準を事業者に聞くと、とりあえずフィルタリングの会社は危険が少しでもあればかける→全部かける→そこから少しずつホワイトリストに加えていくということを聞いた。結局フィルタリングは、かけているけどいろんな情報が欲しいなら、緩和してもらうか、自分たちが情報の選択ができるようになることが重要である。」

S「学校の公式サイトにフィルタリングがかかかって見られないとか。けれども、フィルタリングの意味がある。
→意図しないクリック（広告など）などから守る」

F『他の人の意見で興味のある意見が合ったら、メモってそれを次のセッションに持ち込んで下さい。』

S「制限の度合いが学校によって違うから、統一した方が良い？」
<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

■ 第3グループ

F『今までの振り返りになりますが、ルール・マナーについて、印象的なものや自分が考えたものを付箋に書きだしてください。そしてなんでこのルールが納得出来ないのか？を話し合ってください。』

S「大人もルールを守れてないのが大きい」

F『なんでだと思う？』

S「大人にとっては急にポッと出てきて、誰かがその使い方について教えてくれなかった」

F『みなさんは小学校時代から ICT の指導がありましたか？』

S「なかった」

S「家でも学校でも受けた」

S「中学の技術の科目で受けた。スマホを持っている人は少なかつたから PC ベースだけ」

S「小学校の時に PC の授業の時にタイピングと 10 分間の啓発動画を見る必要があった」

S「地域によって凄い格差があると思う。学年が違うのも大きいと思う」

S「やっている学校とやってない学校の差が激しかった。統一するところから始めないと行けないと思う」

S「全員が納得できる環境を、作る必要があると思う」

F『統一するためにはどうしたらいいかな？』

S「授業で取り入れるのが確実だと思う。高校は情報の授業があるのでそこでやれば良いと思う」

S「大人が授業に取り込んでも反抗期の子達には聞かないかも。こういう Conference の場を多くつくれるようにしたいと思う」

S「キッズニアみたいな施設に Conference が出来る場所があればいいと思う。楽しいと自分から関わりを持ち出すと思う」

S「自分たちがどう関わられるかを論点にしないと、私達がわがままを言っているだけに見えてしまうと思う」

F『どういう風なことをやれば良いかな』

S「動画を作ったのは面白く伝えられると思ったからやってみた」

S「新聞にゲーム方式で情報モラルのアプリを作っているっていうニュースがあった」

S「興味を持たせることが重要だと思う。私は大丈夫だって思わないことが重要だと思う」

S「興味を持ってもらう事が最優先だと思う。自分たちの意識改革が重要だと思う」

F『興味を持っている子は持っているけど、持っていない子もっていないもんね』

S「全員で体育館で一斉に話をするよりも、ロコミみたいな感じで徐々に浸透させていくのがいいと思う」

S「どうやって興味をもたせるかが出たけど、使用時間をグラフにしてみせるアプリを作ってみたりするとこんなに使っているんだって実感できて興味が出るような気がする」

S「それってスマホにソフトが入っているってこと。この視覚化とかに繋がるかな」

S「見て聞いて感じる？」

F『視覚化ってわかりやすくいいよね』

S「入って来やすいと思う」

F『調べ物で使う場合もあるから、一概に使っている時間で計算するのも違うかも？』

S「その分類分けができたらいと思う」

S「機械が判断できるかな？」

S「教育アプリはカウントしないようにするとか」

S「アプリケーションを使わない手は無いいよね」

S「でも初期設定で消せないように入れておかないといけないと思

う」

S「フォルダにまとめられたら意味が無いと思う」

S「電源つけたら自動的に開くようにするとか」

S「ランダムに起動するとか」

S「自分たちがフィルタリングかけられたことがないから自分たちの苦悩がわからないと思う」

S「大人は擬似子供体験をしてもらおうほうがいいと思う」

<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

【第2セッション】

■ 第1グループ

F『各地から持ってきた、高校生の作ったルール・マナーを発表してください』

S「ルール・マナーよく使えたらポイントや電子マネーを提供してはどうか」

S「悪用されそう。偽装もできそう。」

S「サイバープロテクト強化法を作り、自転車のように指導していくべき」

F『それは何歳から適用されるのか』

S「石川県が中学生以下のスマホ所持を禁止しているから、高校生から。」

S「スマホを規制したところで別のものに依存するだけではないか」

S「外から規制するよりも意識改革が大切。沖縄ではそれに挑戦して効果が出ている。」

S「極論としては、高校卒業まではキッズケータイでいいのでは」

F『親としてそれは嫌だ。』

S「スティーブ・ジョブスが自分の子どもにはスマホを持たせないといっていたし、アメリカの頭のいい高校では持たせないらしい」

F『なら親としてそれはアリかも。』

S「ルールやマナーを自分達で考えるべき」

F『できる？沖縄ではできているみたいだけど。』

S「一部の人はできるかもしれないが、全員参加型にするのは難しい。」

S「アニメにするなどして興味を持たせればいいのかではないか。少なくともきっかけにはなる」

S「フィルタリングは抜け道を探すから意味がない。法律や家のルールもそう。ただ、校則は多少守る気持ちが強い」

F『アプリ内のコミュニケーション、ソフトウェア(フィルタリング等の機能制限)、ハードウェア(キッズケータイ)、どこで規制をかけるべきなのか』

S「これに参加してフィルタリングをかけてもらおうと思った。意識は変えられる。」

S「そういう悟りを開く前の人をどう守っていくのか」

S「他人にも迷惑がかかるという意識が大切では。」

S「フィルタリングに意味はない。機能が不十分すぎて普通に使っているだけでも逃れられる。」

F『フィルタリングの大きな目的は危ない情報を遮断すること。その辺はしっかりしている』

S「それでも使う人の脆弱性で危ない情報がやってくる。フィルタリングは不十分」

S「意識改革が大切。そのための場を設けるべき」

S「歩きスマホ専用道路を作ってはどうか」

S「都会と田舎で歩きスマホに対する危機感が違う」

F『それも含めて、全地域統一のルールは難しい。』

F『選挙権が18歳からになったことなども考慮して、次のセッションへどうぞ。』

<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

■ 第2グループ

F『どのような意見が出たか教えてほしい』

S「禁止するのではなくて、問題を理解できるようなルールを作ることが大切という意見が出た。」

S「パソコンは持ってないので、親のを借りる」

S「持っていない目線からだど、【依存】という意味が理解できない。」

S「LINEで片付けるのが理解できない。」

→緊急の変更とか自分が知れないので、不便。(持ってない人)

→持っている人の利点ではある。

S「なんでスマホを持ってない？」

S「部活、勉強、生徒会の上にスマホを持つと両立できない。だから、スマホを持たせない。」

→(友達関係で大変になるのではないかと懸念をしている。)

S「考える事が増えるので、それに対するルールを考える必要がある。」

・ゲームのキャラクターを覚えるより、英単語を覚えたほうが良い。

S「依存を解消するためには、どのようなルールとマナーを作るか」

S「スマホがダメだというルールを作ったら、説得できるかも。」

S「弊害が出なければ、依存になる。」

S「ペナルティの対応のために、ルールの抜け道をさぐる。」

S「スマホを知らないから、スマホの悪いところばかり見えてしまう。」

S「今の大人って学ばずにスマホを手に入れたから、ルールを作る。大人が高校生の視点に立って、体験することで高校生の視点を理解してもらえるのではないか。」

S「フィルタリングって」

J「絶対見ないものはブロックする。掲示板やSNSもブロックする。これに関しては、許可ができるようになってる。」

S「フィルタリングされてないのが、全て悪いという意味ではなく、有用な情報を手に入れない（見たい質問サイトとか）」

S「フィルタリングに関しては、なんでダメなの？というのを大人と話し合いながら、決める必要がある（ここは自分たちでも大丈夫。ここはダメ等）」

S「自分がフィルタリングを理解できていなくて、フィルタリングを面倒だから外そうとしてしまう。」

→自分で設定を変更できることを知らせて、フィルタリングがかかる範囲を自分で設定する。」

S「フィルタリングがかかっているというのはやばい情報が少しでも含まれているサイトの可能性がある。」

S「危険性がある中で、情報を取捨選択する必要がある。」

S「フィルタリングに頼らずに、ネットを使うこと＝取捨選択になる」

S「フィルタリングの力も借りながら、上手くネットを使う」

S「必要か不要かは、まだ分からない。」

S「フィルタリングが不要だと言っている人に限って、ルールの必要性を理解していなかったり、軽く考えているので伝える必要がある。」

S「講話と違ってなんか作り物っぽくて、親近感がわかない。」

S「過激なものを見せなかった結果、危険をなめているのではないかと思う」

S「それは思う。」

S「もう少し親近感のある内容の教材にすべき。」

S「影響力が大きいなら、ビビらすようなものを見せて危機意識を持ってもらう。」

S「反面教師になるのではないか。」

S「動画を撮られて、拡散されて福岡市内や大阪でも見られる。学校の仲間内で楽しむ分には良いが、日本全国に広まるのは嫌。」

S「拡散した本人は全然意識していない。」

S「情報が伝わる中で内容が変わってくるのでそこを理解してほしい。」

S「フィルタリングに対して」

- ・フィルタリングで制限する内容を自分で選択する
- ・人の動画を勝手に載せない。→これに関しては大人の作ったルールだが賛成

S「身内内で動画が広がるのは良いが、、、嫌ではないが恥ずかしかったり、周りからの視線が変わったら嫌だと思う。」

S「ネット上に拡散することによって、勝手に自分の印象をつけられるのが嫌。」

S「動画を上げた本人以外にも周りの人の環境によっても違いが生まれてくる。」

S「携帯を持ってないけど、他人の動画をTwitterなどネット上で交換することはしないようにしている。」

S「自分で嫌な事を体験すると大きいよね。」

S「許可を取って、載つけて拡散するリスクまで説明してもらえるとその時に判断ができた。」

S「しっかりネットの危険性を理解することで、ネット上で馬鹿な意味で有名になろうと思わない。」

S「何か問題になるのは、それがどれだけ危険かを理解していないので、意図的せず炎上してしまわないために」

S「怪我して学ぶような事がリアルであるけど、ネットではそれが無いので良し悪しが分からない。」

<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

【第3セッション】

■ 第1グループ

F『提言に向けて一言ずつ』

S「依存の部分があるから、それをどうすれば良いかを考えたが、DSでもともと入っている機能でプレイ時間を見ることができる。それをもともと、AndroidやiPhoneに入れて、企業になっちゃうけど、入れれば良いかなと。」

S「プレイ時間を見える化するのには良いと思う。動画とか作って、わかりやすくすることが大事」

S「結局のところ大人が子供の話し合う場を作ることが大事。大人と子供が対等な立場で話し合うことをしたい。大人と子供の人数が同じで」

F『どんな人に来て欲しい？』

S「おえらいさん等」

F「親は？」

S「親とか先生も」

S「やるなって、禁止のルールよりこうしなさい。。のようなルールに変更したほうが、守りやすいし納得しやすいルールが作れるのではないかと思った。わかりやすい、、使っているみんなが理解できるようなわかりやすい啓発活動をする必要があると感じた。動画とか見ておもしろかったし、みんな見ようと思った。リーフレットとかも見ようと思うし、一言でもびつとあると印象に残るので」

S「子供の考えも改めていく必要があるように感じた。自分たちがどうするから、どうして欲しいといったこと。自分たちの意見を押し付けるのではなく、これは良いけど、これはフィルタリングをかけてほしくないなど。実際に子供の立場に立って、どのようになるか？」

F『フィルタリングをかけている人？』

S「6人」

F『なんでかけてほしくない？』

S「見たい質問サイトが見えない」

F『フィルタリングが必要だと思う人』→8人

S「ポイントが貯まるのも素敵だなと思う。時間でこうしなさいより、一人ひとりに合わせるのであれば、意識から変えていって、人間が道具に使われているのではなく、人間が道具を使うような意識を高め、最終的に良い方向になるのでとても良いのではないかと感じた。」

S「便利なものを使いたい。」

S「実際に名指しはされないけど、Twitterで悪口を書き込まれてしまう。」

S「それって直接言えと思わない？」

S「陰口とTwitterの両方で言っていた。」

S「高校生がもっと強くなれば良いと思う」

S「喧嘩して直接言えるような人間じゃなかったけど、ネットを使うことによって、伝える事ができた。」

S「親にありがとうを伝えるツールとしてネットを使った。」

S「LINEで告白したり。」

S「形として残るのが良い。」

S「今伝えたいとき、親にLINEで伝えられる。」

S「親に勝手にフィルタリングをかけられると、親との仲が悪くなったりする。友達の間でも必要なルールを作る必要があるのではないかと感じた。」

S「時代によって依存するものがあるが（ラジオ、テレビなど）結局何かに依存している。依存を言い換えるとオタクや一つことに集中できるような事という言い方もできる。」

S「スマホを持ってないが、スマホだけの問題と捉えるとわからなくなるし、交通事故だと法律とかができる。これは、交通事故が起きる誰かが目に見えて傷ついてしまう。しかし、インターネット上では目に見えないのが問題。目に見えるようになってほしい。」

S「一番大事なのは、体験することが重要で自分が被害者になって体験することが重要で、考える事に加えて、もっと身を持って体験することで、犯罪に巻き込まれたり、トラブルを防げるのではないかと思う。」

S「自分が納得してルールを使わないと行けないと思う。奈良県の

高校生でセルフルールブックがある。このように、自分でルールを作る場を設けて、納得できる。身を持って体験することがあまりないが、こういった場に体験を加える事が必要かも。。。」

以上個人の意見発信

プレゼンの作成まで

- ・経験すること。
- ・ルールを決めるのはリアルなコミュニケーションが必要。
- ・経験させて、それをどう活かすのが重要
- ・経験って教育的な要素がある？
- ・ダミーのスマホを配ってフィルタリングとか何もかかってないものを与えて、ネットに繋いで体験するのも良いのではないのでしょうか？
- ・今のは話を聞くだけでなく、もっと経験、身を持って体験する
- ・ダミーのアプリを作成
- ・利用規約が長くて読まない。
- ・Appleは動画になっている。
- ・今のアプリを配るとかは、授業の一環でやるべき？
- ・高校生からスタートするとだいぶ手遅れ
- ・小学生からスタートする？
- ・こういう場ではなく、学校で実施するという感じ？
- ・毎年の避難訓練があるが、それと同じような感じでスマホの演習をしたら？それだけ危険なものにスマホがなっているので。

K「学習指導要領の中では情報の中でスマホの問題も、指導書も配っている。今マストになっていないので、それを整備するのが我々の仕事」

- ・スマホに限らず、さらに依存するものが出るから、先読みして行く必要もある。
- ・機械以外の依存
 - ・機械より楽しい何かを作れば、依存性が低くなる。
 - ・都会だとない→
 - ・部活とかは？
 - ・部活の連絡をネットで回す。

- ・オタクと依存の違いがわかれば。
- ・依存は、日常生活に支障が出ている事を依存と呼ぶ
- ・スマホを常時使っていて、勉強とか健康に影響がなければ依存ではない。
- ・依存の定義を示すと、弊害やが生まれない方法などを考え、意識を変える必要がある。
- ・スマホに対する意識を変えるのも重要だと思う。
- ・大人が禁止といえ、それが守れるという先入観を持っている。
- ・しかし、実際には違うので守れない。
- ・実際に行動で示して欲しい。
- ・ルールを守ることによって、こんな良いことがあるよという事を伝えて欲しい。
→破ると罰金とか、あかんあかんという方向ではなくそういう方向になってほしい。
- ・みんなの感想としては
 - ・禁止ばかりではない
 - ・目に見える体験が必要
 - ・広める手段として教育が必要
 - ・依存については定義を示す必要がある。
 - ・学習指導要領で先生から教えてもらって、それを復習のために動画を作り、PTAや年下へも伝え・広める。
→大人と子供の間にいるので、一番よいのではないかな？
 - ・ルールってをゼロにして作りなおすわけではなく、ルールのある理由を大人と子供がディスカッションできるような場所を作る必要がある。子供の方が、やってみようという探究心があるのでもっとやってみようという思考をどのように活かすかが重要だと思う。
 - ・高校生がディスカッションするだけでなく、実際の行動に移して欲しいと思う。
 - ・繋がりを活かして発信するのは、Youtubeとかでも発信できる。
 - ・動画フェスタのような場所では大人との関わりもあるので良いのでしょうか。
 - ・高校生同士で議論するのは重要かもしれないが、大人も関わってプロジェクトを進めるのが重要なのではないのでしょうか？

・その場で一緒に意見交換ができるようになればと思う。

◆アウトライン

・大人とルールへの感想

・ルールをどう変えてゆくか

・それをどうやって広めていくか？

→教育で広めるなど

・意識という観点も必要になるのではないかな？

・いいね。

・提言でやってください！だけでなく、もっとつながって動いていくようなことも入れたら？

<終>

F=ファシリテーター・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒

K=関係府省庁